（様式１－１）

2013 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） 古代史料領域　中世史料領域　近世史料領域　海外史料領域　複合史料領域
2.申請課題名 本所所蔵品ならびに中国国家博物館所蔵品にみる「倭寇」像の比較研究
3 新規・継続の別（丸をつけてください） 新規　継続
4.申請者 中世史料部門・助教・須田牧子
5.所内共同研究者 画像史料解析センター・教授･久留島典子 古代史料部門・助教・藤原重雄 近世史料部門・教授・保谷徹 史料保存技術室・技術専門職員（写真）・谷昭佳 史料保存技術室・技術職員（写真）・高山さやか
6.希望する研究期間 2011 年度～2013 年度　（　3 年間）
7.課題の概要(400 字程度)　（この項は広報等に利用・掲載することがあります） 本所所蔵「倭寇図巻」は後期倭寇（一六世紀倭寇）のイメージを具体的に描いた絵巻として夙に知られている。一方、中国国家博物館には「抗倭図巻」と名付けられた絵巻が所蔵されており、他にも倭寇を描いた絵画史料が所蔵されている。本研究では、中国国家博物館の許可と協力を得て、第一に「抗倭図巻」と「倭寇図巻」の調査・分析をすすめ、二つの絵巻を比較検討して、その史料的性格を明らかにしていく。第二に、国家博物館が所蔵する倭寇関連の絵画史料の調査をすすめ、近世中国において「倭寇」がいかなるものとして記憶されたのかという問題について検討する。
8.研究の目的(400 字程度) 近年、東アジア海域研究の進展は目覚しく、文献史料の掘り起こしも進んでいるが、画像史料、それも倭寇関係のものとなると極めて限定的であった。そのなかで、中国国家博物館所蔵「抗倭図巻」の発見と紹介は重要な意味を持ち、本所所蔵「倭寇図巻」を再考させる契機となった。2012 年度までの研究においては、両図巻の高精細デジタル画像・赤外線デジタル画像の撮影・分析と関連史料の検索により、両図巻が、原・倭寇図巻というべきものから派生した、いわば一族関係にある絵巻であることを確認した。すなわち「倭寇図巻」や「抗倭図巻」は明代江南において、量産される図柄であったのである。さらに倭寇図巻以外にも多様な倭寇図が存在したことが判明した。これらを踏まえ、本研究では、「倭寇」と呼ばれた歴史的現象が、近世中国においてどのように記憶・伝承されたのかという視点のもとに、「倭寇図巻」「抗倭図巻」の史料的性格の解明を目指したい。

9.共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400 字程度)

高度な写真技術による撮影成果が本研究には不可欠であり、写真技術者の協力は必須である。高精細デジタル画像や赤外線画像の撮影により、各史料を細かく検討するための基礎的な条件が整うからである。また対象とする史料は画像であるから、美術史研究者の参加により、美術史的な視点から考証を行なうことが必要である。また対象史料が描いているのは明代中国であり、明代史研究者の参加により、史料に描かれている風俗の検討や、倭寇たちを迎え撃つ明軍の軍制についての理解を深めることができる。さらに一六世紀江南地域・東アジア海域研究者の参加により、これら画像史料の描かれた歴史的背景を理解する上で必要な視野と専門知識を得ることが出来る。

10.研究の実施計画

2011 年度においては、国際研究集会を 2 回、研究会を 1 回、史料調査を 2 回行ない、以下の成果を得た。①「倭寇図巻」と「抗倭図巻」はともに原・倭寇図巻ともいうべき図巻から派生したものだが、両者の関係は親子関係というほどには近くない、②原・倭寇図巻の内容を推定させる「胡梅林平倭図巻記」という文献史料が発見されたが、それによると原・倭寇図巻が描いていたのは 1556 年の乍浦梁荘の戦いである、従って倭寇との合戦の勝利を描いた絵巻が普及していく段階で、「倭寇図巻」や「抗倭図巻」にみられるような舟山を舞台とする王直退治（1557 年～1558 年）の物語に転換した可能性がある、③明末、官僚の間で戦功図の作成が盛んになる、現存する代表的な作品は中国国家博物館蔵「平番得勝図巻」で、原・倭寇図巻もこうした戦功図作成の系譜に連なるものと考えられる、④これら戦功図にも倭寇が描かれており、また中国国家博物館所蔵「太平抗倭図」は、倭寇を民衆と明軍と関羽が撃退するさまを描いた作品である、すなわち明代においては「倭寇図巻」に限らず、多様な倭寇図が描かれていた。以上を踏まえて、2012 年度においては、「平番得勝図巻」の調査を行なって、「倭寇図巻」を生み出した文化的・歴史的な背景に迫るとともに、「太平抗倭図」の舞台である温嶺、「倭寇図巻」の舞台と思われる舟山、原・倭寇図巻の舞台であったと目される乍浦梁荘の現地調査を実施して、文献史料と絵画史料と現地状況の突合わせを行ない、絵画史料とそれを取り巻く歴史的状況についてより深い理解を目指す（11 月予定）。その成果は国際研究集会を開催し発信する（3 月予定）。

2013 年度においては以上の成果を踏まえ、引き続き中国国家博物館との研究協力のもとに、倭寇関連の絵画史料の調査を進めるとともに、後期倭寇の実態ならびに 16 世紀中国の日本認識についての考察を深め、発見された絵画史料の歴史的な位置づけを図っていく。

11. 研究成果の公開計画

研究成果は国際研究集会を開催して発表し、研究紀要等に論文を掲載する。
また蓄積された研究成果をもとに、図録の作成・刊行（2013 年度予定）を行ない、
論文集の公刊もめざす（2014 年度予定)。

12. 共同研究員にもとめる役割

・中国における原本調査・撮影・関連史料調査への参加
・所蔵史料を理解するための多角的な視点の提供と研究への参加（一六世紀江南地域における倭寇の実態についての検討・明代軍制史についての研究・所蔵品の図像学的検討等）
・国際研究集会における報告と図録に所収する研究論文の執筆。